2024 年度
調査事業

25 年前と 今 を比べて考える

『かわさきの男女共同参画データブック 2024』

こちらから
閲覧可

https://www.scrum21.or.jp/issue/dvdatabook

目的

～　ジェンダー統計をより身近に　～

川崎市の今を「男女共同参画」の視点から読み解く統計資料の１つとして、講座や研修、調べ学習などで活用していただくために作成。市役所職員やセンター職員が出前研修でも利用。

内容と特徴

A4横 ／ 全53頁 ／ PDF

●5つのテーマで構成
- かわさきのキホン（世帯等）
- 働く
- 暮らす
- 決める
- ジェンダーに基づく暴力被害経験

●2023年度に川崎市民を対象とした「男女共同参画に関する意識・実態調査」から得られたデータ&既存統計も活用して作成し、2025年3月発行。

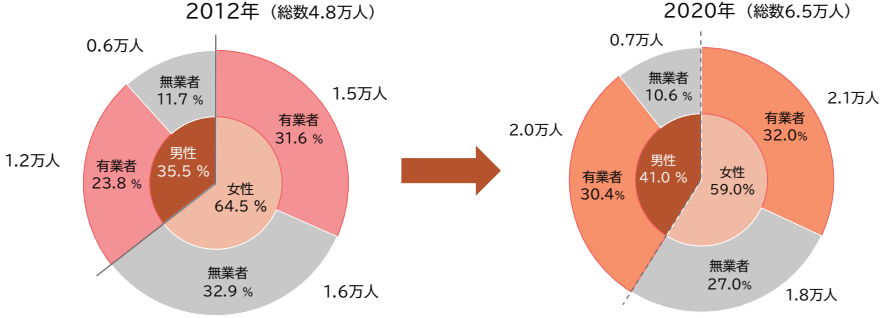
●川崎市の“今”や特徴がわかるように、できるだけ川崎市の“昔”や区別のデータ、全国・他都市と比較

PICK UP　『かわさきの男女共同参画データブック2024』　テーマ：「暮らす」（P33）より

働きながら家族の介護※をしている者の割合の変化

（家族の介護をしている状態にある者に占める有業者の割合の変化）

※ ここでいう「介護」とは、日常生活における入浴・着替え・トイレ・移動・食事などの際に何らかの手助けをする場合をいいます。このデータには、介護保険制度で要介護認定を受けていない人や、自宅外にいる家族の介護も含みます。ただし、病気などで一時的に寝ている人に対する介護は含めません。



出典：川崎市「就業構造基本調査結果」
https://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/51-4-7-6-2-0-0-0-0-0.html（2025.1.14取得）

家族の介護をしながら働いている人は、2012年に比べ、2020年には総数で1.7万人増加しました。内訳をみると、男女ともに有業者の割合が増えています。介護の担い手は、2012年時点では、女性が64.5%、男性が35.5%でしたが、2020年になると、女性が59.0%、男性が41.0%となっています。